

基礎科学セミナー

先端基礎研究センター

永井 士郎

先端基礎研究センターのシンポジウム、ワークショップ、研究会、講演会等はこれまで、主催する研究グループがそれぞれの名称をつけて開催してきた。今秋からこれらの名称を統一して「基礎科学セミナー」とすることになった。この名称はこれまでに開催したものにも遡って適用することとした。平成7年末には46回を数える予定であり、平均すると月1回は議論の場を持っていることになる。ちなみに第1回は、センターが発足した平成5年の4月に開催している。

さて、わが国では相変わらず深刻な経済不況が続いているが、科学の基礎研究は今、かなり強い追い風に煽られている。基礎研究の強化は、長年の紆余曲折を経て先頃成立した「科学技術基本法」にもりこまれているし、来年度における科技厅等の重要施策としても提案されている。重要施策としては、科技厅の「戦略的基礎研究推進制度」をはじめとして、文部省、通産省、農水省、郵政省もそれぞれの新たな基礎研究制度の創設を目指しており、総額312億円が概算要求されている。このうち科技厅からの要求に対しては、すでに本年度の第2次補正として51億円が追加され、前倒しで実施されつつある。この5省庁の新しい制度については、科学技術会議政策委員会の中に新たに設置された懇談会で運用の整合に向けての検討が行われることになっている。このような基礎研究の追風は、我々のセンターにとって心強いものであるが、反面、今走っているテーマにとってはますます成果が問われることになると思われる。優れた成果を上げるためには優れたテーマをもつことがまず必要であり、これからは新規テーマの競争が激しくなると予想される。新しいテーマを考え出すためには、優れたテーマほど先見性と周到な準備が必要である。

BASIC SCIENCE SEMINAR

Siro NAGAI

Advanced Science Research
Center

文部省では平成8年度から科研費補助金の中に新たに「萌芽的研究」を設定したが、我々のセンターでは、伊達センター長の発案で「黎明研究制度」を発足させる予定である。これは、いくつかの研究課題についてそれぞれ調査会を設け、テーマの可能性を探り具体化を図ろうとするもので、調査期間は1~2年である。マンパワーとしてはポストドクや、場合によっては外国人研究者を活用する。調査の結果、テーマにならないというものがあってもよい。またこの調査の中に、ちょっと試してみるといった実験が含まれてもよい。センターではすでに20近い調査会の候補を挙げており、そのうち5グループ程度は本年度から開始したいと考えている。一例をあげると、原子力STM研究調査会である。STMは原子スケールの観測手段としてばかりでなく原子1ヶ1ヶのマニピュレーションや触媒反応の制御の手段としても研究が進んでいる。この調査会ではSTMを用いた広い意味での原子力研究の可能性を探る。黎明研究制度は、8年度予算として概算要求されており、認可されれば、先端基礎研究に限らず全所的に将来の基礎研究のテーマを探るものとなる。

冒頭に述べた基礎科学セミナーに戻る。これまでのセミナーはいずれも、センターで走っているテーマに関連したものであった。統一名称の設定と上述の黎明研究の発足を機に、これからの基礎科学セミナーではセンター以外の所内や、内容によっては所外からの提案も受けて開催できるようにしたい。ちょっとしたアイデア、一見とんでもないアイデアでもよい。専門家が集まってフリーに議論できる場としても運営したい。基礎研究追風の今、我々にとってそういった議論が一番大切ではなからうか。